

天草誕生の物語-天草御所浦ジオパーク- Origin of Amakusa Islands -Amakusa Goshoura Geopark-

鷓飼 宏明^{1*}, 長谷 義隆¹
Hiroaki Ugai^{1*}, Yoshitaka Hase¹

¹ 天草市立御所浦白亜紀資料館

¹ Amakusa City Goshoura Cretaceous Museum

はじめに

一億年の歴史を記録した大地、良質な鉱産資源、大地の恵みを利用した石文化、多島海を含む風光明媚な地形、そして野生のイルカが定住する豊かな生態系が天草地域の特徴です。そのなかで、天草御所浦ジオパーク地域は天草地域で最も古い地層の部分を含む天草諸島東岸の基礎にあたります。天草御所浦ジオパークに関わる天草誕生の物語を紹介します。

第1章 恐竜時代の陸と海

天草上島東部から一億数千万年前の歴史が始まります。地下深い場所でマグマが冷え固まりできた岩石が地表に顔を出し、陸地ができました。中生代白亜紀中頃(約1億年前)の天草は海と陸地が隣接する場所で、多くの生物が生息していました。大地にはワニやカメのすむ川が流れ、植物が森をつくり、陸上の支配者である草食や肉食の恐竜たちが生活していました。海には多くの貝類やアンモナイトが群れ、それを捕食するサメや首長竜がすむ世界があったのです。この時代の多様な化石は御所浦層群から見つかります。

恐竜時代の終わりに近い白亜紀後期(約8500?6550万年前)恐竜たちが歩いていた陸地は日の光も余り届かない深く暗い海の底になります。海底にはアンモナイトや大型の二枚貝が生息し、時折、浅い海底にすむ生き物の殻が海底の砂と共に運び込まれました。この時代の堆積物である姫浦層群は約2000万年の間に、3600?4000mの厚さに達します。白亜紀の終わり、6550万年前に隕石が地球に衝突し、恐竜時代が幕を下ろしました。

第2章 絶滅ほ乳類と石炭形成の時代

恐竜絶滅後の新生代古第三紀始新世(5000万?4000万年前)の時代、天草の大地は上下に大きく変動しました。約5000万年前の天草地域には、水の豊かな熱帯の陸地が広がっていました。陸地には恐竜に代わって大型のほ乳類であるコリフォドンやトロゴサスが草を食べ、川にはカメなどが生息していたのです。この陸地に溜まった地層が弥勒層群赤崎層です。

やがて大地は沈降し始め、やがて温かく浅い海域になりました。海底にはキリガイダマシなどの巻貝と共に、大型底生有孔虫のヌムリテス(貨幣石)が生息していました。マングローブ林に似た干潟では大型の巻貝が生息していました。この浅い海の堆積物が弥勒層群白嶽層で天草上島に発達する厚い白岳砂岩もこのときに溜まったものです。

浅い海はこの後、急に深さを増し、深く静かな海域になります。深海となった海底では静かに泥が溜まり、時折、浅い場所よりヌムリテスを含む岩石や大量の砂、砂岩と泥岩でできた海底の一部が滑り落ちていました。この深い海の堆積物は本渡層群教良木層にみられます。

第3章 マグマ活動と地殻変動

新生代新第三紀は九州から瀬戸内海沿岸地域で活発なマグマ活動が起きた時代でした。天草上島と下島では1900万年前から1400万年前にかけマグマ活動が起きました。この500万年間は、冷え固まると白色になる性質のマグマが地下より上昇し、天草上島の倉岳をはじめ、各所で岩脈が形成されました。この岩脈の一部は御所浦地域にもみられます。この頃アジア大陸の東岸では日本海が開きはじめていました。現在の日本海周辺の大地は横からの圧力で大きく変動し、これまで堆積した岩石が隆起・傾動し、天草地域に大きな褶曲構造を生み出したと考えられます。

第4章 人の定住と天草諸島の誕生

最終氷河期(約2万年前)には、現在の有明海と八代海地域は海ではなく、ゾウやシカのすむ草原や森林が広がっていました。人々は狩猟をおこなって生活していました。さらに約5000年前に海水面が上昇したいわゆる縄文海進時代になると人々は海岸周辺に定住するようになりました。その後、少し海水面が低下して、現在の天草諸島の姿になります。16世紀末になると東シナ海に面した地理的条件も加わり天草地域では西洋文化が華開きました。天草の乱の後、人々は大地の豊かな資源を掘り当て、石炭産業、石工文化、陶磁器産業などが最盛期を迎えます。そして大地の遺産を活用

した自然公園を意味するジオパークに御所浦地域が認定されました。天草地域はこのことをきっかけにした新たな地域振興を始めます。

キーワード: 天草, ジオパーク, 御所浦, 化石

Keywords: Amakusa, geopark, Goshoura, fossil